

白河旭高等学校創立100周年記念式典

福島県高等学校長協会長・祝辞

平成26年9月27日（土）13時30分

白河旭高等学校第一体育館

ただいま御紹介いただきました、福島県高等学校長協会会長を務めております安積高等学校長の久保田範夫でございます。県高等学校長協会99人の校長に代わりまして、お祝いの言葉を申し述べます。

福島県立白河旭高等学校の創立100周年を心からお祝い申し上げます。

また、本日、感謝状・表彰状を受賞された皆様に、重ねてお祝い申し上げます。

いきなり私事で恐縮ですが、私自身、平成14年からの2年間、教頭として本校に勤務した経験があります。平成16年に90周年でしたので、その準備に当たりましたが、それから、12年以上の月日が経ってしまったのかと思うと感慨深いものがあります。

さて、本校の前身となりました**白河町立実科高等女学校の創設は100年前の大正3（1914）年に遡ります**。この年、あの**夏目漱石が小説「こゝろ」を新聞に連載、自費出版**の形で本になりました。一口に100年前と言いますが、日本が長寿社会になっていると言っても、高校生の皆さんから見れば四世代前の曾お祖父さん・曾お祖母さんの時代ですから、長い時の積み重ねに違いありません。

因みに、**県南地区の県立学校、全日制・定時制高校、特別支援学校の本校・分校の合計36校**（本校31校・分校5校＝全日制高校23校・定時制2校・分校3校、特別支援学校6校・分校2校）の中で創立100年を超える学校は、安積高校130年、須賀川高校・岩瀬農業高校と聾学校が106年、安積黎明高校102年、そして**白河旭高校100年の6校だけ**ということになりますが、いずれにせよ、100年の歴史という時の積み重ねは大変なことであります。

さて、私は、**新採用の、雪が3メートルも積もる只見高校時代から現在まで、新たに赴任した学校では真っ先に校歌を覚えて歌えるように心がけてきました**。それは、**校歌の歌詞にはその学校の創立以来の校訓や精神、スピリットが込められていることが多いから**でありますし、また、校歌を声高らかに歌うことによってその学校と生徒を好きになれるからであります。

白河旭高校の校歌は、**西白河郡立白河高等女学校時代の大正10年に（浅野清八作詞、田中敬一作曲）定められ、平成9年に共学化しても変わりませんでした**。共学化に伴い校歌も新しくなった高校がほとんどでしたが、旧女子校の中で白河旭高校と磐城桜が丘高校だけが、旧女子校時代の校歌を歌い継いでいると聞いております。

先ほど、本校勤務経験の話をしてしましたが、教諭時代の私は新採用の只見以来、4校経験していたのですが、旧女子校勤務は初めてでした。全クラスが参加する校内合唱祭にも驚きましたが、それよりも白河旭高校の校歌を初めて聞いて、「良い曲だなあ」という第一印象と、「えっ」「あれっ」という驚きを覚えたことを記憶しています。専門的なことはよくわかりませんが、全体としては長調の曲なの

に、曲の途中で短調の音階が出てきて転調する校歌をそれまで知りませんでしたし、寡聞にして他に類例があるかもわかりません。（恐らくは全国にも例は無いのではと思っています。）

先ほども述べましたが、校歌というものは、例えば「学びの道を朝夕に 踏みて磨かん身と心」や「学びの苑は 進取と自律」など、その学校の校訓等が直接歌われたり、或いは校訓に繋がる歌詞が出てくるのが一般的です。それは歴史のある古い校歌ほどその傾向が強いように思われます。

100周年に当たり、今回改めて白河旭高校の校歌の歌詞を見直してみました。

（皆様のお手元の要項の〇〇に掲載されていますのでご覧ください。）

礎固きわが白河の わが学び舎ぞいとなつかしき
永久の栄えをことほぎて 水音高く歌い行く
逢隈川ものぞむべく 理想のかげとたとうべき
那須のみ山の姿をも 日毎日毎に仰ぐべく

一読、校訓に繋がるような歌詞は見当たらず、歌に描かれる情景としては、阿武隈川と那須連山の姿だけのように見えますが、実は「白河」の地と「わが学び舎」に対する深い愛情が込められている歌なのではないでしょうか。

白河の関は、能因法師、西行、そして芭蕉が訪れ、歌枕というだけでなく**風雅の心そのものの象徴**とも言えると思います。名君松平公の歴史と文化の街、白河の地にどっしりと根を下ろしているわが母校からは、永久に栄える母校を祝福するかのごとく、きらきらと輝きながら清らかに流れる阿武隈川を臨むことができ、理想の光と讃えられる那須の山々が朝日を浴びて光り輝く姿を仰ぎ見ることができるその母校で、君たちには「明るく、優しく、正しく」高校生時代を過ごしてほしい、そのような作詞者の声が私には聞こえてきました。非常に素晴らしい校歌ですので、長く長く歌い継いでいってほしいと思います。

（卒業生25, 259名、同窓生25, 537名）

本校の卒業生は、25000名を超え、国内外の各界で活躍していると伺っています。矢祭・塙方面からの所謂「お嬢バス」が端的に示すように、平成8年度まで創立以来80年以上に亘って、白河を含めた県南地区の女子教育の先導的な役割を果たしてきた本校ですが、共学化以降の年数を数えれば18歳の青年期に当たります。進学の実績にしても、陸上競技部や剣道部を始めとする部活動の実績にしても、これから更に伸びていくはずです。

最後になりますが、白河旭高校の生徒の皆さん、校歌に歌われる「なつかしき」
学び舎でしっかり学び、校章に刻まれている「より高いところにある理想である北極星」をまっすぐ目指し、ここ白河の地で育まれた皆さんの夢が実現することと、創立110周年、更にその先へ向けた白河旭高等学校の益々の発展をお祈り申し上げ、私のお祝いの言葉といたします。

本日は、学校創立100周年、誠におめでとうございます。